



令和8年3月16日

文化・観光局 文化課 文化財保護・活用室

担当者 細川・山田

内線 3332, 3338 直通 0952-25-7233

E-mail: bunkazaihogo@pref.saga.lg.jp

佐賀県と国立大学法人東京大学総合研究博物館との「吉野ヶ里遺跡 出土品利活用に関する連携協定」締結式を実施します

佐賀県では来年度から、本物の価値と圧倒的な数量を誇る吉野ヶ里遺跡等の出土品を収蔵したまま見せる新たな収蔵モデル（「魅せる」収蔵庫）に挑戦するにあたり、東京大学総合研究博物館と連携協定を締結します。

記

1 協定の概要

東京大学総合研究博物館が持つ高度な専門知識、設備、研究力を生かした共同研究を行い、「魅せる」収蔵庫に係る基本構想・基本計画を策定するとともに、大学が行う吉野ヶ里遺跡出土品の先端的分析研究について、連携及び協力することを目的として、連携協定を締結するものです。

2 連結協定締結式

- (1) 日時 令和8年3月18日（水曜日） 16時30分から
- (2) 場所 佐賀県庁4階 来賓室
- (3) 出席者 東京大学総合研究博物館
館長 西秋 良宏（にしあき よしひろ）氏
客員教授 洪 恒夫（こう つねお）氏
佐賀県知事 山口 祥義（やまぐち よしのり） ほか

3 協定における連携・協力事項

- (1) 「魅せる」収蔵庫の基本構想・計画の受託研究に関すること
- (2) 博物館が行う吉野ヶ里遺跡出土品の先端的分析研究に関すること
- (3) 佐賀県または東京大学総合研究博物館の要請に応じて連携・協力が必要と認められる事項

【報道関係の皆様へのごお願い】

取材される場合、17日（火）17時迄に文化財保護・活用室へ御連絡ください。

関係者プロフィール

■ 東京大学総合研究博物館 西秋 良宏 (にしあき よしひろ) (64歳)

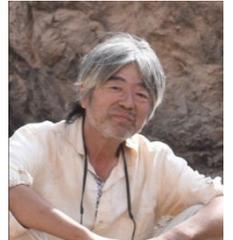
- ・愛知県名古屋市生まれ、その後は海外等で生活
- ・専門 先史考古学 (西アジア (中近東) をフィールドとする考古学者)

1983年 東京大学文学部考古学専修課程卒業

2006年 東京大学総合研究博物館教授

2020年 東京大学総合研究博物館長

中央アジアをフィールドとして、約 20 万年前といわれるホモ・サピエンスの出アフリカ以降の人類の歴史を化石人骨や石器などの考古学資料からたどる。穀物が出現した新石器時代や都市の成立にも関心があり、先史考古学・人類学全般に精通する。



■ 東京大学総合研究博物館 洪 恒夫 (こう つねお) (65歳)

・1960年横浜生まれ。1985年武蔵野美術大学卒業、(株)丹青社入社。以来ミュージアム、テーマパーク、博覧会、展覧会等幅広い分野の施設プランニング、デザイン、プロデュースを手がける。

・2002年より東京大学総合研究博物館教員を兼務し、ミュージアム・展示等の可能性の実践型研究を推進している。

・所属する日本空間デザイン協会 (D S A) を始めとした日本のデザイン 8 団体で構成する日本デザイン団体協議会 (通称 D-8) で推進する「ジャパンデザインミュージアム設立研究委員会」の活動にも従事。

